

「ちょっとの差」で人生をエンジョイ

1. 先輩の教え

私は、サラリーマン時代、トヨタ系販売店に約20年勤務してシステムを主に担当し、全社オンラインシステムを完成させ、その後、経営企画を担当してトヨタ自動車の物流改善プロジェクトのモデル店のリーダーをしていました。この会社の社長が大恩ある故福井巧社長なのです。福井社長は一代で中古車販売から日産系の販売店そしてトヨタ系に変わったユニークな経歴の方なのですが、よく「棚野君、人生はちょっとの差で変わるんだよ」と教えて頂いた事を思い出します。中古車販売で儲かっている時に「これからは国産車の時代だ」と日産系の販売店になり、昭和43年に「これからは乗用車の時代だ」と日産自動車に掛け合い願いが叶えられずに商業契約の手続きを踏んでトヨタオート店になったという決断を何回も繰り返した立志伝的な方なのです。業界では誰もが尊敬する方なので、その「素」な言葉は素直に腑に落ちるのです。この「ちょっとの差」が心に響き、今も大切にしており、弊社のホームページのトップにも私が9年前につくった101篇の「ちょっとの差」を10秒間隔でフラッシュしています。

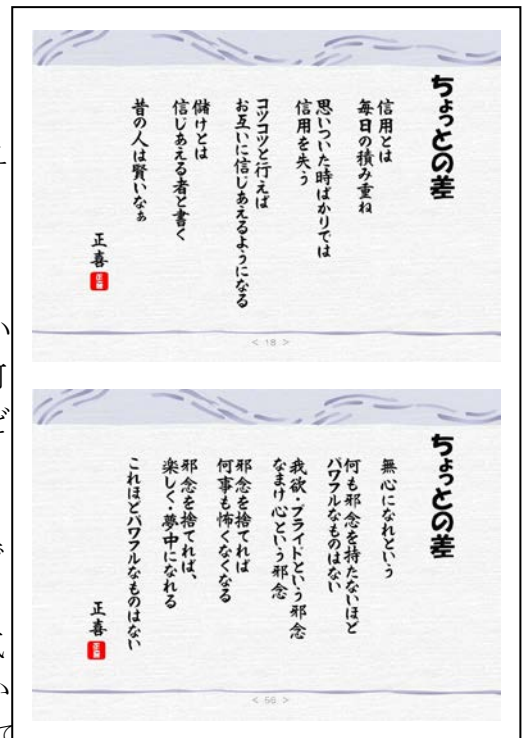


(参照：<http://www.web-ami.com>)

福井社長のおっしゃる「ちょっとの差」を実感したのは、トヨタ自動車の改善指導の鏝本先生が豊田通商に転籍される時に「迷ったら、より困難な方を選ぶ」と教えて下さった時でした。何事も「やるか、やらないか」の2択であり、「手頃か、手難しいか」の2択なのです。鏝本先生は「難しい」方を選び「やる」と決められたのです。これは苦勞を覚悟するから可能になる選択なのです。「やる」=「苦勞」、つまり、「ちょっとの差」=「覚悟の差」なのです。

2. 「ちょっとの差」

右掲は、ホームページでランダムにフラッシュしている「ちょっとの差」から2つ引用したものです。上は20頁目の物で「信用とは毎日の積み重ね 思いついた時ばかりでは信用を失う コツコツと行えばお互いに信じあえるようになる 儲けとは信じあえる者と書く 昔の人は賢いなあ 正喜」とあり、「儲」=「信」+「者」という事を書いています。



下は58頁目の物で「無心になれという 何も邪念を持たないほどパワフルなものはない 我欲・プライドという邪念 なまけ心という邪念 邪念を捨てれば何事も怖くなくなる 邪念を捨てれば、楽しく・夢中になれる これほどパワフルなものはない 正喜」と書いていますが、これは母から教わった言葉です。

こんな調子の101篇ですが、実は、会社経営が一番厳しい時で借金も多額になっていたので、電子出版という形で公表したのです。少ないながらも売れたので波長の合う方がいらっしやると勇氣をもらっています。なにせ無名の経営コンサルタントの「訓」ですから説得力に欠けると自覚していますが、これも「素」な言葉で書いているので、ストンと腑に落ちると言ってくださった方もいらっしやいます。「するめ」という読めば読む程に味がするという方もいらっしやるので心強いです。

3. 「成功の方程式」

このように「ちょっとの差」は自社のHPでもフラッシュで展開しているのですが、最近、お客様の営業会議で社長様が「微差の積み重ねが大切だと聞いた」と話されて、内心ガッカリしたのです。長いお付き合いなので当初に「ちょっとの差」をお話していたと思うのですが、印象に残っていなかったようでした。非常に残念に思いましたが、お客様が本当に気づかれて、さらに、腑に落ちたのだから一歩前進されたと思いました。

「ストンと落ちる」と言いますが、そのような言葉は長く心に残るものでありますが、多くの場合、それでも頭から抜けるものです。右掲は、私が「成功の方程式」と呼んでいるものですが、25年前、IBM特約店時代に訪問した西宮のお客様の応接室に掲示されたいた物を待ち時間の間にノートに書き写したものです。その後、ネットで調べるといろんな方が紹介されていますが、このお客様は松下幸之助翁が販売店に贈った額だとおっしゃっていて、タイトルは「訓」となっていました。

「訓」

心が変われば、行動が変わる
行動が変われば、習慣が変わる
習慣が変われば、人格が変わる
人格が変われば、天命が変わる

作者不詳

これも「ちょっとの差」だと思います。「いいな！」という心の響きを「メモ」という行動に移したから今日ご紹介できるのです。「メモをとると安心して忘れてしまう」とも言いますが、本当に心に響いた事は簡単には忘れないが、記憶だけだと曖昧になるので「メモ」は重要です。今や携帯電話やスマホの時代ですから、メモする手段はいろいろとあります。写真や音声録音などを使えば、比較的簡単に実行できると思います。

4. 楽しくなければ良い人生でない

私は、7月11日に満68才になります。既に、年金と基金を頂いていますが、現役として毎日頑張っています。定年退職をされた方を見ているとあり余った時間をどのように使うかに困っておられるように思います。ある方は、退職金の一部を使って若い時に憧れていたハーレーを購入して気ままにドライブを楽しまれていましたが、半年もしないうちにハーレーが車庫に入り、その後、売却したとおっしゃっていました。また、別の方は、私と同じ一人暮らしになられたが奥さんの保険金やサラリーマン時代の個人年金もあって、自宅マンションを持ちながら毎日外出で月に25万円程いるとおっしゃっていました。また、別な流れの時間の使い方では、私が尊敬する広島の木原先生は「余生とは他人様のために自分の時間を自由に使うことのように。」とおっしゃるように地域の為にいろんな活動をされています。もう80才を迎えられましたが矍鑠とされており、先生のファンの方々に慕われておられます。

確かに、いろんな生き方があってよいと思いますが、私自身は、前述のように3年半前に妻に先立たれていますので、夫婦揃ってクルーズや豪華寝台列車という非日常的な時間や空間を味わうという訳には行かないのです。一人で出来る事って限られているとつくづく実感しています。木原先生が教えて下さるように「他人様の為に時間を自由に使う」という事で、事務所のあるマンションで老人会に入り会計をやりながらいろんなお世話をさせて頂いています。例えば、毎日、夕方4時から1時間ウオーキングしようという活動や月に2回あるジャンカラのシニア半額デーでは有志と3時間ほどカラオケを楽しむようにしています。「楽しみ」と「お世話」を一緒にしています。やっぱり、人生は楽しくなければ人生と言えません。ほんの「ちょっとの事」でも楽しい、つまり、他人様と一緒にしない楽しめる事が重要です。そういう「余生」をエンジョイしながら、お客様に貢献できるように健康増進をして行きたいと思っています。